

県市町村歴史公文書等保存活用共同会議研修会・第2回部会の開催結果について

1 日時 平成29年8月30日(水)午後1時から4時半

2 場所 倉吉市(エキパル倉吉多目的ホール)

3 概要

(1) 評価選別部会

① 先進地事例 三豊市文書館における評価選別作業について

ー三豊市における評価選別・保存活用、電子決裁等の取組等ー

講師：宮田 克成 氏(香川県三豊市文書館長)

(内容)

- ・H23年6月に合併前の旧町の永年保存文書を集め開館した「三豊市文書館」の開館までの経緯や組織、評価選別基準、評価選別作業について説明。
- ・普及啓発業務として、企画展の実施や目録作成体験など開催している。
- ・電子決裁システムの導入はH23年10月からで、基本的な考え方としては、收受文書も電子化すれば紙文書は廃棄し、電子化率は98%と高く、ペーパーレスも進んでいる。決裁は紙文書よりも早く、特に遠方の機関はメリットが大きい。
- ・電子化した文書は長期的に閲覧可能か等の課題もあるが、利点も多々あり導入検討の価値はあり、導入する場合は、利用を徹底することが必要。

② 倉吉市における評価選別作業について

発表：倉吉市総務部総務課法政係 椿主事

(内容)

- ・博物館長、図書館長、嘱託による評価選別委員会での評価選別の取組や評価選別基準、歴史公文書の保管場所等について説明。

③ 評価選別アンケート結果について

- ・県から結果の概要について説明。
- ・部会長から、標準的な評価選別基準の体系について市町村の意見を聞き、「廃棄してもよいもの」「必ず残すもの」「歴史公文書等の定義」を取り入れたものを作ることとなった。分量については、あまり多くなく、数ページ程度のものを目指すこととなり、詳細についてはワーキンググループで原案を作成して次回の部会で検討することとなった。(ワーキンググループは、米子市、倉吉市、三朝町、八頭町で構成。)

④ 共同会議の事業協力依頼

これまで説明していた巡回企画展、県(公文書館、博物館、図書館等)と市町村の連携・協力計画案の状況について説明するとともに、災害時の救援のための資料保管場所の調査や民間文書の所在調査への協力を依頼

(2) 現用文書部会

○県のシステム実演

- ・県における県の電子決裁・文書管理システム及び電子会議室を利用した簡易決裁を実際に稼働して見てもらい、意見交換。

○市町村のシステム運用状況説明

- ・電子決裁・文書管理システムを導入している市町村から、運用状況を説明し、意見交換。
システム化した場合のメリット、デメリット等について理解を深めた。

○鳥取県自治体ICT共同化推進協議会の取組説明

- ・情報政策課から、鳥取県自治体ICT共同化推進協議会の取組について説明。